［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 17 日

【評価実施概要】

事業所番号	２１７０１０２１８６		
法人名	有限会社 エ・アロウ福富		
事業所名	グループホーム エ・アロウ福富		
所在地	岐阜市福富町迎田７２ （電話） ０５８－２２９－０２３８		
評価機関名	ＮＰＯ法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町３丁目７番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年12月11日	評価確定日	平成21年1月14日

【情報提供票より】 （平成 20 年 11 月 1 日 事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成 13 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 13 人,非常勤 7 人,常勤換算 8.4 人	

（２）建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	2 階建ての 1 ～ 2 階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	42,000 円		その他の経費（月額）	8,400 円
敷金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 105,000 円）		有りの場合 償却の有無	有（期間：12ヶ月）
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,470 円		

（４）利用者の概要 （平成 20 年 11 月 1 日 現在）

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護１	5 名	要介護２	6 名		
要介護３	7 名	要介護４	0 名		
要介護５	0 名	要支援２	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 69 歳	最高 99 歳		

（５）協力医療機関

協力医療機関名	竹内クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、市郊外の幹線道路から一歩入った静かな田園地帯で、点在する古い農家とその一角の新しい住宅団地とが混在する地域にあり、居室前に広がる田園は利用者に太陽と自然をプレゼントしている。会社寮を改造した2階建ての建物であるが、2階への階段は外に後付け造作されて、中はその分更にゆったりと広く、全館桧材を使用し、2居室毎にトイレ･洗面所･洗濯場がある。総桧の大きな浴槽･すのこは清潔で美しく、家族が驚くほど風呂好きになった利用者もいる。年配ながら事業をさらに拡大しようとする意欲のある経営者と、もの静かなベテランの施設長、それを支える職員には男性職員もおり、できるだけ同性介護ができるような体制となっており、随所に工夫が見られる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	ヒヤリハット記録、系列ホームとの合同新年会、介護計画作成など著しく改善されているが、研修体制や重度化対応マニュアル作成は継続課題である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	今回の自己評価は、職員の意見を聞き施設長がまとめて記入した。今後は、各職員が分担・記入し、それを持ち寄って話し合い、その結果をまとめる方向で検討されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	会議は地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、家族の参加を得て、隔月に各種行事と同時に開催されている。会議では行事報告やホームの状況を報告し、意見を求め、運営に取り入れようとしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族には、来訪した時の面談報告、緊急の時の電話連絡、年4回発行の家族便り、年4回の家族会などで各種の報告を行い、ホームへの意見は苦情箱、家族会、運営推進会議等、多くの機会が設けられており、その対応には経営者や施設長が主としてあたり、運営に直接反映させようと努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	自治会に入会したばかりであるため、ホームの行事には地域の人達の参加はあまりないが、地域やコミュニティセンターの行事には、ホームから積極的に出かけて地域との交流を深めようとしている。

2. 評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営理念は「尽くす」「心愛」「協調」「精進」「共生」の5つがつくられ、付帯文と共に居間などに掲示している。「共生」は、ホーム内だけではなく地域へ展開する事も意図している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月例職員会議では全職員が理念と運営方針を唱和し、日々のケアの中でそれらが実践されているかを確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	経営者の永年の尽力が実のり、ようやく自治会に入会する事ができた。まだホームの行事には地域の人達の参加はあまりないが、地域やコミュニティセンターの行事には、ホームから積極的に出かけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員の意見を聞き、施設長がまとめて記入した。前回の改善課題であるヒヤリハット記録や他のホームとの交流などは改善されているが、継続中の改善課題もある。	○	施設長のみが自己評価票を作成するのではなく、職員が直接、自己評価項目に向かいあうことに意義があることを理解し、分担し合って全職員が参画することが望まれる。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、家族の参加を得て、隔月に各種行事と同時に開催されている。行事報告やホームの状況を報告し、意見を求め、運営に取り入れようとしている。	○	会議は年4回の家族会と同日に開催する等、家族が出席しやすくし、会議の場でホームの悩み事を相談するなど地域の協力を得られるよう積極的に活用されたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	経営者は事業をさらに拡大しようとする意欲があり、また、生活保護受給者も複数名入居されており、市との連携活動は多い。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪した時の面談報告、緊急時の電話連絡、毎月の金銭報告、年4回発行の家族便り、年間行事予定表の送付、年4回の家族会などと報告の機会は多い。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に置いた苦情箱、家族会、運営推進会議等で意見を言う機会は設けられている。経営者や施設長が主として苦情相談対応にあたり、運営に反映させようと努めている。	○	苦情申立先として公的な第三者機関の明示を重要事項説明書に行う他、契約書等における「敷金」を始めとする字句の修正が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人は2ヶ所でホームを経営しているが、法人内の人事異動はない。ホーム内の1･2階ユニット間の異動はあるが、もとより日常活動は一緒に行い、共に馴染むよう配慮されている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護業務の経験の長い経営者や施設長によるOJT(職場内の職務訓練)手法による研修･育成が行われている。職場内のビデオ研修も取り入れられているが体系だってはいない。	○	外部研修はもとより、法人内研修を同法人経営の他のホームと合同で行うなどの工夫で、研修の機会が得られるよう検討されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に加盟し、経営者も施設長も長い経験からくる人脈もあり、他のホーム経営者との交流はある。同法人のもう1つのホームと合同新年会を行う予定である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族が見学に来たりするが、空きが出ると即入居が決まり、なかなか体験してから入居という状況にはない。入居後には家族が毎週面会に来たり外出する利用者もいる。特に入居当初は、職員が目を離さずに見守りしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	冬場は屋内に居る事が多く、トランプ、塗り絵、オルガン演奏などが行われているが、暖かい日には外へ出て、花壇や家庭菜園の世話を職員と一緒に行っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から、介護の折々にそれとなく本人の気持や意向を感じとって、その希望をかなえられるように努めている。毎月1回は利用者に思いや希望を自由に語ってもらう利用者会議も続けられている。	○	職員が感じ取った利用者の気持･希望を、今後の担当職員がいつでも容易に確認できるようなフェイスシート、本人概要書などへの補記などの工夫が望まれる。
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族の来訪時に家族の意向を聞き、職員会議では一人ずつ意見･アイディアを出して話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	特段の事があったときはその時に、定例的には毎月全職員が集まって介護計画の見直しを行っているが、変化のないときは6ヶ月ごとに介護計画を再作成している。	○	介護計画について、家族と面談する事ができず、承認を受けられなかった場合は、介護計画を送付し、説明を行い、承認書の返送を受ける事が望ましい。
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や墓参りの移送支援を無料で行っている。後見人が必要な人には後見人活動を行っている法人なども紹介し、連携した活動を行っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医が認知症の専門医でもあり、ほとんどの利用者が受診しているが、2名の利用者は入居前の主治医を受診しており、通院支援を無料で行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師の職員がおり、相応の健康管理は行っているが、看取りまでは医療連携が難しく行えない。既に終末期ケアが想定される一部の利用者家族やかかりつけ医とも話し合いを行い、緊急入院体制を準備している。	○	看取りの協力医師が確保できないため、行っていないが、現時点で利用者がホームで死亡した場合の対応を職員向けに文書化しておくことが望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営規定では利用者の尊厳とプライバシーを守ることをうたい、重要事項説明書ではでき得る限りの同性介護を約束している。夏場に開放される居室入口には季節の暖簾がかけられ、介護記録等は常時事務室内にある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎月理容師がヘアカットに来訪するが、外出支援を受けて馴染みの美容院に行く利用者もいる。オルガンを弾くのが好きな先生だった人、花や野菜栽培の好きな人など、その人らしい過ごし方を支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は馴染みの食器を持ち込んでおり、料理は品数も多く見た目も美しく味付けも利用者に好評であり、食事が一番の楽しみでもある。1ヶ月毎に職員が献立を作り、食材を買出し、調理している。秋にはサツマイモを収穫し、皆で焼き芋を楽しんでいる。土地柄、引き売りから新鮮な魚を買うことが多い。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は、広い浴槽･フタ･すのこ･壁･天井とすべてに桧材が使われ、、木には黒カビもなく、清潔に管理され。週3回の入浴であるが、入居前は風呂嫌いだったが、入居後は大好きになり、家族を驚かせた利用者も居る。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	経営者が自ら苦労をして安全な外壁を作り、利用者と職員が一緒に花壇や菜園を管理し、栽培することが、利用者の張り合いとなっている。また、職員以上に野菜の下処理が上手な利用者もおり、教えたり任されたりすることで、喜びや生きがいとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日には、近隣の田園地帯は良い散歩コースであり、週3回の食材買出し、喫茶店や本屋へも出かけている。手すりのある居室のベランダは外気浴を自由にすることができる。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	新規入居者で帰宅願望が強く、徘徊事故の恐れがあったため、一時的に施錠したことはあったが、通常の日中は施錠していない。徘徊には、治まるまで職員が同行している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム単独の避難訓練を行い、地域の避難訓練にも参加している。シャッター付のベランダには火災時に一時避難できる。1週間程度の食料備蓄があり、避難体制･マニュアルもあり、スプリンクラー設備も設置の予定がある。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量はバイタルチェックと共に記録管理されている。水分補給も必要量が確保されており、記録化する予定である。施設内で使用される総ての水は浄水器にかけられている。献立･買出し･調理は職員が行っている。	○	栄養バランスや摂取カロリーについて、時には管理栄養士などにアドバイス受ける体制が望まれる。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分の廊下･床･壁は改造工事でほとんど桧板で覆われ快適である。居室前にはゆったりした多目的室や居間･食堂があり、2室毎にトイレ･洗面所･洗濯場があり、随所に観葉植物が置いてある。冬にはイス式コタツが置かれ、利用者に好評である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からは田畑や遠くの山野を眺め、日差しは居室奥まで入る。広い和室で馴染みの家具等があり、家族の宿泊も出来る。ベランダはいつでも安全に外気浴ができて快適である。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。